

市場専門家の洞察を共有する

デロイトUK アンドリユー・ブリー氏 有限責任監査法人トーマツ 後藤 茂之氏

対談 欧州保険市場の動向(下)

本紙では、PRA (Prudential Regulation Authority、英国健全性監督局) の生保ディレクターや、EIOPA (European Insurance and Occupational Pensions Authority、欧州保険・企業年金監督局) における経験を有し、現在、デロイトUKに勤務するアンドリユー・ブリー氏と、大手損保会社および保険持ち株会社で企画部長、リスク管理部長を歴任し、現在、有限責任監査法人トーマツでERM高度化関連コンサルティンクに従事する後藤茂之氏の対談を掲載。今後の欧州保険市場の展望に関する専門家としての意見を聞き、注目すべき動きや課題について洞察を共有する。



は改善すべきだと主張しています。今回のEIOPAの検討項目には入っていません。このような状況について、例えば英国保険協会 (Association of British Insurers: ABI) も不満を述べています。

一方、PRAは、ソルベンシーIIの幾つかの規制が英国の業界に適合していない諸項目に関する対応について、国会議員などから追及を受けています。Brexit後、PRAがどのような対応をとるのか、独自の対応をとるのかといった可能性を指摘する向きもあります。Brexit後、PRAがどのような対応をとるのか、独自の対応をとるのかといった可能性を指摘する向きもあります。

一方、PRAは、ソルベンシーIIの幾つかの規制が英国の業界に適合していない諸項目に関する対応について、国会議員などから追及を受けています。Brexit後、PRAがどのような対応をとるのか、独自の対応をとるのかといった可能性を指摘する向きもあります。

ソルベンシーIIの運営状況を検証して改定するプロセスが重要

後藤 2016年に導入されたソルベンシーIIですが、これまでの運営を検証し、今年度、EIOPAを中心に改定作業が進められると聞いています。ブリーさんは、デロイトに入る前から深く

ソルベンシーIIは、各国に先駆けて導入された経済価値ベースの健全性規制の枠組みです。Brexitの交渉が並行して進められていますが、EIOPAによる改定作業とBrexitに何か関連が出てくるのか、についても考えを聞かせていただければと思います。ブリー ソルベンシーIIというわけにはいきま

問題意識を持って、EIOPAに改定を主張しています。これは、現在の枠組みでは、資本コストが固定されています。金利環境が続く中、特に英国のポートフォリオの特性も影響しています。英国の保険会社の大きな負担になっており、リスクオフの行動を誘発します。プロシクリリティ (景気循環増幅効果) という観点では好ましくありません。英国はこれまでの経験から、このような硬直的な枠組み

ど、おおむね順調に進めてきたと思います。一方、各国との調整など細かい点を捉えると、課題を抱えているのも事実です。特に、低金利が長引く、不透明な経済・金融環境が続く中で思慮深い運営が求められます。Brexit後、EUへのアクセスを維持したいと考えている保険会社がルクセンブルグやオランダに代替拠点を設置している動きについての課題などがあります。ブリー Brexit は、欧州にまたがる保険契約が存在するため、英国と、英国外の拠点運営に係る両サイドの問題であるという点に留意する必要があります。つまり、保険会社にとって、両サイドの当局を説得し、良好な関係を構築していかなければならぬということになります。――保険のデジタル化の進展についてですが、規制強化は進んでいくのでしょうか。

【アンドリユー・ブリー氏 プロフィール】

デロイトUKパートナー。2016年10月以前は、バンクオブイングランドのPRA

において生命保険会社監督を担当するディレクターを務める。14年から16年には、EIOPAにおいて英国を代表する参加者としての経験も有し、ロンドンの保険引受・仲立入市

場、商業および投資銀行、資産管理などの金融監督分野にて活躍。

また、私は、ソルベンシーIIでの欧州の経験はある意味、現在、IAISで論議されているグローバルのICSの論議において大いに参考になる知見を提供できるのではないかと思っています。その意味でも欧州の経験も参考にし、国際論

――3点ほどあります。まず、ソルベンシーIIが導入されて2年が経過しました。その意義と課題についてお聞かせください。

ブリー 先ほど説明した通り、ソルベンシーIIは、EUにとって重大な前進と考えています。これまで、時間通りに内部モデルを承認するな

【後藤茂之氏プロフィール】

有限責任監査法人トーマツディレクター。大手損害保険会社および保険持ち株会社に、企画部長、リスク管理部長を歴任。日米保険交渉、合

併・経営統合に伴う経営管理体制の構築、海外M&A、保険ERMの構築、グループ内部門の高度化、リスクア

卒業 コロンビア大学ビジネススクール日本経済経営研究所・客員研究員、中央大学大学院総合政策研究科博士課程修了。博士(総合政策)。

卒業 コロンビア大学ビジネススクール日本経済経営研究所・客員研究員、中央大学大学院総合政策研究科博士課程修了。博士(総合政策)。

ブリー 先ほど説明した通り、ソルベンシーIIは、EUにとって重大な前進と考えています。これまで、時間通りに内部モデルを承認するな

ブリー デジタル化は複雑な領域といえます。ベネフィットと懸念が混在しているからです。当局は、デジタル化の動きによる他業界からの参入の確保も含め、デジタル化の進展の足を引っ張り、イノベーションを阻害することは決してないという点では一致しているものと思います。同時